

避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に微小電流を流したときの電圧）を測定して判断します。

## ●ピン配列と本体内部回路図（注意：本体部のピン番号とソケットの端子番号は異なります。）

### 本体部

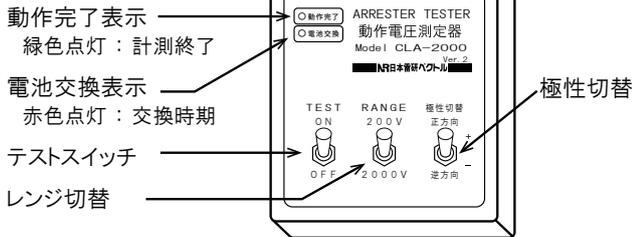
ピン側よりの図

テストピン又はクリップにておこなってください



赤色が＋極 黒色が－極

図1



### チェッカーの動作について

チェッカー CLA-2000の数値は  
TESTスイッチをOFFにするまで表示します。

## ●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。
- ② 測定するピン間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。

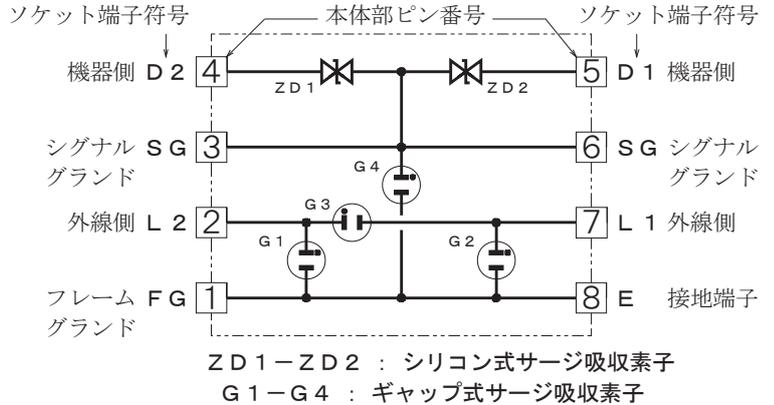
<電話回線用避雷器 SF-48A>

保護素子位置	素子符号	測定端子	ピン番号 ⊕ ⊖	印加電圧 (レンジ)	確認内容
機器側線間	ZD1	D1/SG間	5-6 * 1	DC200V	74-90V 範囲内であること
機器側線間	ZD2	D2/SG間	4-3 * 1	DC200V	74-90V 範囲内であること
線-接地間	G1	L1/E 間	7-8	DC2000V	225-345V 範囲内であること
線-接地間	G2	L2/E 間	2-8	DC2000V	225-345V 範囲内であること
外線側線間	G3	L1/L2間	7-2	DC2000V	225-345V 範囲内であること
シグナル グラウンド-接地間	G4	SG/E 間	3-8	DC2000V	225-345V 範囲内であること

\* 1 ダイオードZD1とZD2の各々逆方向をチェックします。（極性切替スイッチを使用します。）

## ●専用ソケット内蔵のライン抵抗も抵抗測定用テスターで確認してください。

端子⑦から⑤間 約3Ω/端子②から④間 約3Ωあれば良好です。  
サージによりストレスを受けた場合は高抵抗となっています。



### 点検前・・・ご注意

- ① 安全のため配線されたソケットより外して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。  
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 試験回数につきまして  
2～3回程度で終了してください。  
モリブデン式のみでなく酸化亜鉛式、ギャップ式なども劣化の原因になることもあります。

### 点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。  
交換までの雷サージ対策となります。